

令和4年度第1回渋川地域保健医療対策協議会  
地域医療構想調整部会 議事概要

日時 令和4年10月25日(火)  
午後7時00分～午後8時30分  
場所 渋川合同庁舎 3階301会議室

議題(1) 地域医療構想に関するデータ等を踏まえた地域の現状・課題等について

- 資料1-1～1-2に基づき事務局から説明
- 意見、質疑等の概要は次のとおり

(委員) ハイケアに関しては、必要だが地域にないため、渋川医療センターでハイケアユニットを設けるつもりで企画している。医師の確保が問題。それほど多くの病床を設けられるわけではないが、とりあえず4床を目指して計画を立てている。

(地域医療構想アドバイザー) 医療だけでなく介護、地域包括ケアシステムの中でどう役割分担していくか。在宅診療等も含めて考えていかねばならない。渋川は隣接する医療圏との連携も考えていかねばならない。

(地域医療構想アドバイザー) 骨折など、他医療圏に多く流出しているのが気になる。それだけ地域医療が他の医療圏を必要としている。

議題(2) 公立病院が地域で担う役割・機能等の意見交換について

- 公立病院経営強化プラン策定の早期の段階で地域の意見を聴く機会を設けた。
- 資料2に基づき県立小児医療センターから説明
- 意見、質疑等の概要は次のとおり

(地域医療構想アドバイザー) 小児医療センターは、いろいろな所から患者を受け入れて北関東の雄だと思っているが、小児医療センターと群馬大学附属病院で小児医療が分散している。県民からすると融合した方がよいのではないかと。医師の働き方改革からも統一した方がよいと考えている。

(地域医療構想アドバイザー) 小児医療センターは歴史が長くなってきて、全県を挙げての医師確保での連携という意味で期待は大きい。

(委員) 医師会としては、地域医療の中で手伝ってもらっていて大変助かっている。新型コロナの感染拡大の際には大人も引き受けてくれた。非常に地域に根ざしているの、高度急性期の機能だけで小児医療センターを見るのはどうかと思う。

報告事項等について

- 資料3～5に基づき事務局から説明
- 意見、質疑の概要は次のとおり

(委員) 病床を増やすことはできないが、現状を維持できるようにしたい。

(委員) 急性期275床のうち4床を2025年までには高度急性期にもっていくつもりで動いている。地域に必要な脳卒中やてんかん、高度呼吸器障害の患者を受け入れられる体制を整えて貢献していきたい

(委員) 循環器中心になるが、地域の循環器医療をカバーできる体制にしたい。

(委員) 渋川医療圏は在宅支援病院がなく、在宅医療が弱い地域のような話だったが、病床の届出がないから在宅療養医療をしていない訳ではない。中身をきちんと評

働いてほしい。引き続き当地区の在宅療養支援を頑張りたい。

(委員) 精神科病院を基本として、身体合併症や認知症のBPSD、手術後のせん妄が長い患者も受け入れている。要請はあるため、今後も続けていきたい。

(委員) 6月に病院を新築移転して地域包括ケアを増やしている。地域包括は回復リハの対象にならないポストアキュートも受け入れている。急性期に関しては高齢の骨折患者の手術から回復リハまでできるようにしていきたい。病床機能報告と実際の保険診療とで見ると中身が全く変わってくる。報告と、病院が実際に地域で活動している役割は違っているのを認識してほしい。

(地域医療構想アドバイザー) 国のデータと実際がずれているのは再三言ってきた。地域の先生には地域の弱み、強みをどんどん発信してほしい。

(事務局) データに基づいて御協議いただいているが、こぼれ落ちてしまう物があるのは心苦しく思う。データの限界を踏まえつつ、より有意義な議論のために工夫していきたい。